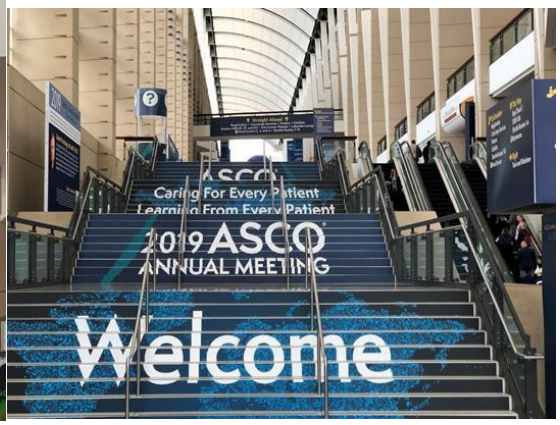
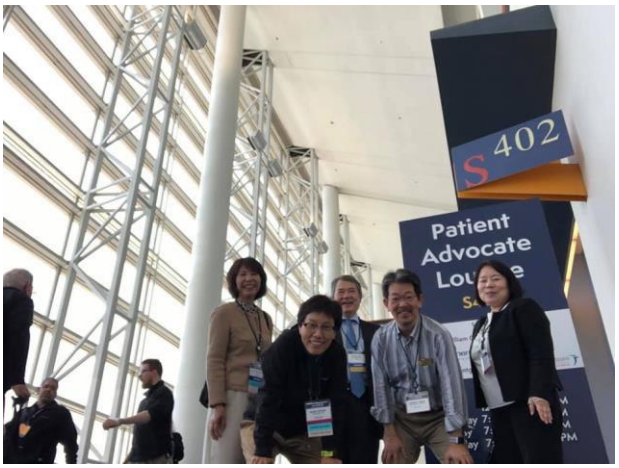
PAL ASCO2019参加助成事業　2019年度　PAL報告書

一社）日本癌医療翻訳アソシエイツ（JAMT・ジャムティ）
野中　希

米国シカゴのマコーミックプレイスで2019年 5 月 31 日～6 月 4 日に開催された第55 回米国臨床腫瘍学会（ASCO）年次総会に、昨年に続き参加して参りました。

アドボケート 3 名、同行の先生方 2 名での参加でした。JSCOの助成制度では、2年連続の年次総会参加となっており、私の場合は2年目の参加となりました。初参加の方に対するメンターをうまく務められるかと不安もありましたが、同行くださった相羽先生、谷野先生やみなさんのお蔭で楽しく学び、交流し、有意義な経験をさせていただきました。





JSCO PAL助成参加メンバーと同行の相羽先生、谷野先生

ASCO2019 のテーマは「Caring for Every Patient, Learning From Every Patient（一人一人の患者をケアし、その一人一人から学ぶ）」で、個別化医療ならびにプレシジョン医療を遂行する現在の医療にも通ずる、ぴったりのテーマだと思いました。

ASCO2019では、会場のセッティングやデザインなどは昨年と同じものも多かったです。が、内容はどの演題も最先端かつ深いもので、日常診療を変えるような注目の第 3 相試験の結果発表や、息をのむような学術発表の空気に触れ、毎日充実して過ごせました。

■ASCO2019 PAL

3人のJSCO助成メンバーは、事前にASCOアドボケート参加登録をしました。毎朝7:30にPALラウンジに集合し、そこで急ぎの朝食を取り、各自参加したいセッションへ一目散に駆け込みました。

私の場合は、がん患者支援活動としてがん情報の提供を行っていることから、すべてのがん種が関心の対象です。それらの最新情報に触れ、また教育セッションで勉強することにより、よりよい情報提供に繋げられればと時間を惜しんで次々と会場を回りまし た。

PAL ラウンジでは、お昼にはランチが用意されていて、米国内もしくは海外のアドボケートがあつまります。期間中 PAL 提供のセッション（FDA 当局の担当者など）も少しありましたが、今年は他のセッションと重なり参加できませんでした。

顔見知りになったアドボケートの方々との再会や、初めての方々との貴重な出会いもありました。International Cancer Advocacy Network の CEO であり、肺がんの Exon 20 Group のディレクターらとご一緒できました。実際にお話しできたのはとても印象深いことでした。

■学術発表

2 日目の午後、最大の注目を浴びるプレナリーセッションがありました。広大な会場で、下の写真のようにスクリーンがいくつも用意されているのでどこに座ってもスクリーンを間近で見ることができます。

今年のプレナリーセッション 4 演題は以下です。

1 公的医療保険のシステムを変えることにより、マイノリティの方々の治療開始を迅速化できるといった診療上の改善が示されたとの報告。

つまりこれらの人種における医療格差は、「制度の問題」「データの問題」であったと説明されていました。このような医療制度に関するプレナリーの発表は、私が参加した過去の学会の中では初めてのことであり、驚きとともに視座を高

めることが出来ました。

２　転移を有するホルモン感受性前立腺がんを対象としたランダム化第 3 相試験初回標準治療に新たな薬剤を追加することにより生存が改善しました。

３　遺伝性 *BRCA* 変異陽性の膵臓がん患者における PARP 阻害剤による維持療法のランダム化第 3 相試験で生存期間の改善が示されました。
難治がんである膵臓がんの治療に一筋の光明が差した発表でした。

４　進行軟部肉腫患者に対する併用療法を単剤と比較したランダム化第 3 相試験の発表でした。第 2 相で迅速承認されたにもかかわらず、第 3 相で覆されたネガティブな結果となりました。米国食品医薬品局（FDA）は、希少で治療困難な肉腫に対する 40 年ぶりの治療薬として 2016 年に迅速承認していたので大変に残念です。

また、昨年、がんの免疫チェックポイント阻害薬で本庶佑先生とノーベル賞を共受賞された MD アンダーソンがんセンターのジェームズ・アリソン氏の講演もありました。免疫チェックポイント CTLA-4 を発見された先生です。なぜ免疫療法薬がすべての患者に効果がないのかについて講義とディスカッションがありました。さすがに免疫機構の内容は難解でしたが、貴重な講演を拝聴できました。

ポスター会場へも足を運びました。各団体・企業ブースと同じホールの奥で、相当な数のポスターが掲示されています。私の活動母体であります JAMT の活動に協力いただいている監修の先生含め、日本から多くの先生がポスター発表をされており、直にお話を伺えた方もありました。日本の先生方のご活躍を見ることができ、大変嬉しかったです。

■その他参加したイベント、セミナーなど

ASCOでは、夕刻のプレジデント・レセプションにPALを招待してくれます。昨年は科学産業博物館、今年は、マコーミックプレイスから北へ上ったミシガン湖の畔、Theater on the Lake にて開催されました。JSCO 助成仲間の岩澤さんと参加しました。

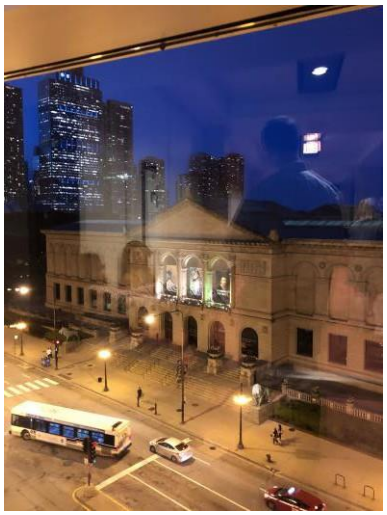
今年は 1 日余裕をもってシカゴに到着し、5 月 30 日午後から 2 日間開催される有料の Pre-ASCO meeting Seminor「New Drugs in Oncology」を受講しました。大変興味深い内容の教育セミナーでした。

もう一つ、初めて ASCO のリサーチアドボケートのための「Focus on Research」という関連プロジェクトに申し込みましたが、時間の都合がつかず、わずかしか出席できませんでした。

■シカゴの街

イリノイ州シカゴの街は、ミシガン湖に面した大都会です。学会への参加が優先で、観光に行けるのは限られた時間だけですがシカゴ美術館や有名なタワーもあります。建築物が有名で、芸術的な古くからの建物や高層ビルが多く立ち並んでいます。今回も行けませんでしたが、バスや船で観光ツアーもできます。食事もおいしいものがたくさんあり、ショッピングにも事欠きません。今年は、シカゴ交響楽団の演奏会を聴くことができました。

市街を流れるシカゴ川



シカゴ美術館

■最後に

日本癌治療学会（JSCO）PAL ASCO参加助成をいただき、このような学びの機会を与えていただきましたことに深謝いたします。このようながん医療の進歩を目にして、これからも日本の患者さんに正しく速く情報の提供ができればと思います。